



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC

つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

厚労省交渉 in ユニアカ！ 13名参加

全労連青年部主催の「2009 ユニオン・ユース・アカデミー」の事前企画として、北は北海道～南は福岡から青年があつまり、厚労省交渉をおこないました。今回の交渉テーマは「派遣切りをやめ、直接雇用しろ！」「ストップ内定取り消し、青年の雇用を守れ！」にしぼり、こちら側からの意見や青年の話しをたっぷり聞いてもらうことを重視し取り組みました。



(写真左) 要請書を渡す吉田部長

派遣法がある限り、労働者は救われない

交渉での、発言は以下です。

福岡県労連青年部の大西さん：雇用の破壊で福岡県内だけでも、大企業が大量の解雇計画を出しています。そして、中小企業で倒産が戦後最大となっています。仕事がないということは、暮らしていけません。子どもを育てたり、結婚もできない、安心して子どもを育てられる環境にしてくれないと。

大阪労連青年部の尾崎さん：派遣切りで裁判闘争をしている青年がたくさんいる。タイガー魔法瓶とたたかった仲間は、勝利判決でしたが、職場にもどれなかった。派遣切りにあえば、誰でも裁判に訴えるしかなく、時間とエネルギーが膨大にか

かるし、勝っても職場には戻れない。この状況をなんとかしてほしい。

全労連青年部の吉田部長：埼玉県でも職を失ったという、労働相談がつかない。工場が多いからです。職を失ったことで家も失う。ですが相談に来ている少数は救われるが、圧倒的多数の困っている方は救われない。労働者派遣法は、使い捨てを可能にする法律だということがあきらかになった。大企業への規制、派遣切りにあった人を救済する制度を。

全労連青年部の廣瀬副部長：建交労の中にも、いろんな形態で働く仲間がいるが、どこの職種からも切実な相談が寄せられている。違法派遣、偽装請負、これが明らかになっても、是正し改善した事例がほとんどない。裁判をやったりできるのはほんの一部で、圧倒的な人は救われない。その圧倒的な人に対する救済は、厚生労働省がやるべき。

厚生労働省側からは「事実をうけとめ、担当部にきちんと伝えます。」と回答を得ました。

青年の雇用を守れ！ 知らないじゃすまされ ない現実が襲ってくる

京都総評青年部の永井さん：青年は、会社から不利益をこうむっても、どこに相談したらいいのか、

わからない。会社が賃金払ってくれないからと警察に飛び込んでいった事例もあるそうです。国民は働く権利を知らないんです。厚生労働省は、働かせる上で、ルールを教えるから社会にだしてほしい。また、労働基準監督官が少ない。京都には10万企業もあるのに、監督官は数えるほどしかない。ぜひ、考えてほしい。



北海道労連青年協の坂本さん：私は看護師です。看護師は、25%の夜勤割り増しで働いているが、実際は負担が重く、強いストレスをうけ、鬱などになりやすい。医療現場なので、患者さんに安心してほしいけど、看護師側の身体が心配です。看護師がやめないで働き続けられる状態にしてほしい。また、病院では多くの介護士や事務で働く人たちがいますが、とりわけ介護職はかなり安い賃金で働いている。暮していけません。

札幌ローカルユニオン結の青山さん：不払い時間外労働についてですが、私は美容室で働いていました。しかし、練習時間はサービス労働でした。会社の利益があがるために練習しましたが、個人の責任に。専門学校でも、そう教えられていました。サービスなんだと。これは、非常識が常識化、常識が非常識化しています。青年は事実を知らない。だまっていたら学習できません。また、最賃とかありますが、基準を調べたら、衣食住と文化的額を満たせる金額ではありませんでした。最賃で働いても8時間では暮らせないんです。文化的要求も満たせない。最賃はあげるべきです。

日高教の井村さん：高校生がアルバイトしますが、有休や残業などの概念がまったくない中で働い

ています。そして、その高校生の概念が、そのまま持ち上がって就職し社会に出ていっています。私たちは高校生の憲法1万人調査をしましたが、この間の雇用情勢が厳しい中で、自由欄には、ほとんど雇用のことが書かれていました。「いつやめさせられるか心配です。この日本の未来が不安です」「一生懸命働けば、暮らしていける社会にしてほしい」「人が毎日安心して働ける社会に」「一生懸命働けば安心して暮らせる社会にしてほしい」いまの子どもは、職につくこと、働くことそのものが、不安定を前提になっています。

鋭い質問で攻める！

大阪労連の中津川さん：雇用調整助成金を受けたあとに、それが切れることで解雇する事例が出てきていますが、これについて大阪の労働局は「別にかまわない」と言っていますがどうですか？

全労連青年部の廣瀬副部長：内定取り消しについて、最近は悪質になり、採用しても半年は自宅待機とか出てきている。これはどういうことか？

これに対し、厚生労働省の担当官は「調査し、企業側への働きかけを強める。また就職面接会など積極的に行動していきたい。」と答えました。

25日からは、いよいよユニオン・ユース・アカデミーがスタートします。「つながる」「たたかう」「支えあう」青年部の確立のために引き続き奮闘します！



交渉を終え引き続き各地での奮闘を決意する参加者たち